

【会員だより】

地域の町おこし活動「京おとくに・街おこしネットワーク」に参加して

林 勝(41 回生)

2001年の定年退職後、生地の長岡京市でNPO「京おとくに・街おこしネットワーク」のボランティア活動に参加し、昨年で10周年を迎えました。2008年に活動開始以来、西山古道整備事業、花と緑の街おこし事業、観光総合ガイド事業、特産品開発事業等々多岐にわたり活動を続けております。この様な活動の中で、我々が植樹を続けている「陽光桜」の生みの親であるNPO 陽光桜「鎮魂と平和」交流協会から第4回ミャンマー陽光桜植樹会のご案内をいただき、2020年1月17日から5泊6日(機中1泊)の平和の架け橋親善旅行に行つてまいりました。

平和の桜「陽光桜」は(故)高岡正明氏(1909年～2001年)が『二度と戦争は起こしてはならない。ミャンマー等激戦地(インパール)の人々や日本の戦死者の供養をし、争いのない平和な世界を築かなければならない』と、足掛け25年の歳月と私財をなげうって開発されました。ご子息の高岡照海氏は『陽光桜』を世界中に広めたいとの熱い思いを受け継いで、これまで40数年間、リトアニアなど27か国へ「鎮魂と平和」の命題のもと、全くの無償で「陽光桜」を提供されてきました。

ミャンマーには2017年から植樹が始まって以来、4回目になり、東部カヤー州の高地(標高800m)や新首都ネピドゥーの国会議事堂前庭に数品種の日本桜を植樹しました。

アウンサンスーチー国家顧問が私的に建設を進めておられる亡母の為の森「月光林」にも、アウンサンスーチー女子立会いの下に「陽光桜」を植樹し、和やかに会食、握手までしていただきました。非常に貴重な体験をいたしました。ミャンマーは後発途上国を脱却し発展途上国の仲間入りを果たしたばかりの国で、新首都建設をはじめ、道路や観光設備等の社会インフラはこれから整備されます。観光は1日だけでしたが、仏教国だけあって仏教への熱意の高さに驚きました。寺院は全て素足での参拝になります。地元の食事はお隣の中国の影響か香辛料のきいた中華料理もどきの物が多かったです。植樹した桜が咲く数年先も元気で居れば、再会を果たすのが夢であり私の望みです。

コロナ禍のステイホームで時間があり、ご興味のある方はぜひホームページ「京おとくに・街おこしネットワーク」を覗いていただければ幸いです。



月光林でスーチー女史を囲んで



国会議事堂前庭での植樹

以上